

101 茶室の秘密 (2022年3月3日)

フランスで、抹茶 (Matcha) をよく見かけるようになりました。抹茶は、茶道 (茶の湯) で飲まれているお茶であることをご存じのことでしょう。茶道の発展の歴史の中で、茶室という独特の空間が生まれました。日本でも茶室で抹茶をいただく体験をしたことがある人は多くはないですが、実はフランスでも本格的な茶室で抹茶をいただくことができます。

パリのギメ東洋美術館の別館には、「虚白」と名付けられた茶室があります。一見、普通の日本の伝統的な建築に見えますが、茶室ならではの特征があります。代表的なものとして、蹲踞 (つくばい) があります。蹲踞は、岩や石をくり抜いて水を溜め、水をすくうための柄杓が置かれています。茶室は、神聖な空間であると考えられていますので、茶室に入る前には蹲踞で手と口を清めます。洗面所のように手や口を洗うのではなく、そのようなしぐさをすることで邪念を取り除いて心を清めることが目的です。



そして、茶室には躡り口 (にじりぐち) と呼ばれる小さな出入口があります。客人は、この小さな出入口を通して茶室の中へ入ります。一辺が約 70 センチですので、身をかがめないと通ることができません。茶道を完成させた千利休が活躍した 16 世紀は、日本では戦国時代でした。当時の武士は刀を持っていましたが、刀を持って小さな入口を通ることはできませんでした。当時は封建社会でしたので身分の差がありましたが、茶室に入るときは身を低くして躡り口を通ることで、全ての人々が平等に扱われました。

茶室の中は畳が敷かれ、床の間があります。室内の面積は、一辺が 3 メートル以下が一般的で、一辺が 2 メートル以下の小さなものもあります。狭い空間に少人数の客、場合によっては客は一人だけが招かれ、亭主は客に料理と抹茶を提供

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

して、心を込めてもてなします。そして、床の間には、掛軸や花を飾ります。亭主は、茶会のテーマに相応しい言葉が書かれた掛軸と季節の花を選びます。茶室という特別な空間の中では、客は身分に関係なく大切に扱われ、亭主のもてなしによって亭主と客との親密な関係が生まれます。



機会があれば、カフェとは異なる雰囲気の中で、抹茶を召し上がってみてはいかがでしょうか。

\* ギメ東洋美術館の茶室で行われる茶道体験のスケジュールは、同美術館のウェブサイトでご確認ください。<https://www.guimet.fr/> (仏語のみ)

